

晴読雨読

『PICO から始める医学文献検索のすすめ』

小島原典子、河合富士美 編集

東京 南江堂

2019年2月10日発行

21 cm vii, 144 p ISBN: 978-4-524-24579-6

定価 3,000 円 + 税



医学や看護の研究を行う際、文献検索は欠くことのできない作業のひとつであるが、限られた時間と膨大な資料の中から効果的に検索を絞り込むことは、最終的に目的となる文献をブレなく選ぶために大変重要なポイントでありながら、理解されていないことが多い。

本書では、思いつくキーワードを複数掛け合わせて単純に検索するのではなく、まずは研究テーマとしたい疑問（リサーチクエスチョン・RQ）や臨床上の疑問（クリニカルクエスチョン・CQ）を、PICOの構成要素（P：患者、I：介入、C：比較、O：アウトカム）に分けて定式化し、シソーラスを利用した適切なキーワードをPICOに選定して検索を行うことで、必要な文献を効率的・効果的に探す方法を提案している。

Iの基礎編では、文献検索の基本的な考え方と方法、保健医療分野の主要データベースが紹介され、それらのデータベース上でシソーラスを活用する方法、さらにはRQやCQに基づいたPICOを設定した後、それらの言葉をキーワードにして、適合率の高い検索を行う方法が紹介されている。

IIの発展編では、診療ガイドライン作成にあたっての計画の立て方や手順、CQに沿った文献検索の方法や注意事項が、詳しく解説されている。

基礎編・発展編、共に具体的な検索事例を交えつつ説明されているが、ただ一読するだけではわかりにくいので、実際に医中誌やPubMedといったデータベースで検索を行いながら読み進めると、本書が強調するシソーラスの重要性も実感できて、より理解が深まることだろう。

本書は文献検索に不慣れな医療者・研究者を対象読者として書かれているが、彼らの研究を支援する立場にある司書にも役立つ一冊である。検索初心者向けというよりは、データベース検索に慣れた人向けの解説書と言える。主要データベースでの基本的な検索方法を理解した後に読まれることをお勧めしたい。

昨今ではEBM（科学的根拠に基づいた医療）のニーズが日々高まっているが、質の高い二次研究論文や診療ガイドラインは、医師が医学的根拠のある治療を患者に提供するために、大きな役割を果たしている。わが国では、EBM普及推進事業Mindsの取り組みの一つとして診療ガイドライン作成支援が行われているが、ガイドラインの質の向上にあたって、系統的な文献検索法に熟知した司書や研究者は、より重要で不可欠な存在になるだろう。

本書は高度な文献検索法の知識獲得を目指す者にとって、良き入門書となりうる。

（神戸市立医療センター西市民病院／村上 敦子）